

令和4年度自己評価公表シート

学校法人 鴨谷学園 鳳 幼稚園

令和4年度の教職員の自己評価及び学校関係者の評価を実施した。令和3年度に実施したECEQ 公開保育を活用した幼児教育の資質向上システム に続き、令和4年度も7月8日に公開保育を実施できたことは、本園の教育活動をより充実したものにできたのではないかと考える。また、公開保育を実施し、堺市教育委員会指導主事および他園の先生方、周辺の小学校長にも参観いただくことで、自園の取り組みについて見直す機会を持てたと同時に、幼少の接続に繋がる機会も持てたのではないかと考える。

また、全職員が同じ目標に向かい日常の保育を見直し、自己の問題点を把握すると共に自園および保育者自身の強みを確認でき、自信をもって保育に取り組むことができるようになったと同時に、今後の課題について全教職員で受け止めることで改善の方向性を具体的に指し示すこともできた。

この結果をもとに、令和5年度も質の高い保育、安全安心な幼稚園をめざして更なる教職員の資質向上に努めたい。

教育目標

鴨谷学園独自のカリキュラムを基本に、鳳の地域性と開園10年目の状況を振り返り、保育全般について計画的に取り組んでいく。

幼児期にふさわしい生活習慣を育てる。

恵まれた環境の中で、豊かな感性を育てる。

友達との生活を通して、やさしさと思いやりの心を育てる。

地域、学校との連携を図り心身ともに健康な子どもを育てる。

今年度の重点目標

美木多幼稚園・諏訪森幼稚園・鳳幼稚園の3園の園長、主任と理事長が集まったの主任会において、情報交換にとどまらず、安心安全な環境の中での行事の実施について意見交換を行う。また、日々の保育の質向上について話し合いを行う。

教育目標達成をめざして、評価項目にそって自己点検 自己評価を実施し教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、保育内容の確立と施設・設備の充実に主体的に取り組む。

職員一人ひとりが意見を発表し、全員で考え、取り組んでいくという意識を持てるよう、ファシリテーター研修に参加済みの教員が中心となって、職員会議や反省会の運営を行う。

職員の業務内容および労働環境について見直しを図り、合理的な働き方ができるよう働き方改革を推進する。間カリキュラムの精選および教育課程の見直しを行うとともに、適切な子ども理解のもとに日々の保育活動でのねらいを把握し、子どもたちの健やかな育成に努める。

評価項目と取り組みの状況

	評価項目	評価目標		取り組み状況
1		教育方針、目標は園の特色を生かしたものになっている。	A	全教職員は、教育目標を確実に理解し保育活動の充実に向けて努力した一年であった。収穫体験を中心に、秋の登山など自然にふれる機会は十分に達成できた。大型遊具の設置等、園庭の

	教育方針			施設設備は、計画的に充実した。 体操、音楽、絵画、英語の専科講師の指導により幅広い教育活動となった。
2	教育方針 目標	園の教育方針や目標を保護者の理解を促すように、取り組んでいる。	A	園だよりや毎日更新のブログ、懇談会、保育参観、3大行事の実施など保護者対象の行事活動により教育方針・内容を保護者に伝え理解を促すようにした。 連絡ノートや降園時の保護者との関わりの中で、担任と保護者の情報交換も十分にできた。
3	教育課程の 編成	教育課程の編成は、幼稚園の教育要領を踏まえ園の教育方針に従い編成している。	A	昨年度見直した教育課程をもとに、5領域をバランスよく編成できるように取り組みを進めた。 学年ごとに次週の週案の見通しをたて、学年の打ち合わせにおいて余裕をもった指導計画に十分配慮した。
4	教育内容の 保護者への 周知	園の教育、保育のねらいや内容を保護者にわかりやすく伝える工夫をしている。	A	家庭訪問や年2回の個人懇談を通して保護者と共通理解をして保育のねらいや内容をわかりやすく伝えている。また、感染症対策を行った上で、安全に実施できると判断したうえでの体操参観、給食参観、英語参観を実施した。 毎月、園だよりを発行、各学年のねらいや詳しい内容、行事の詳細について知らせている。給食の献立や保健だよりも園だよりに綴じ1冊にまとめて伝えている。また、毎日の教育活動の中から撮影した写真をもとにブログ公開を毎日行っている。 入園説明会を開催し、本園の教育方針や特色について、詳しく知らせている。また園見学は随時受け付けるなど、園の教育、保育のねらいや内容について、つねにオープンにしている。
5	教育環境の 構成	幼児を温かく受け入れる環境を作り人と関わる力が育つような配慮をしている。	A	園庭遊びを大切に考え、自由遊びの場で遊びの場が広がるようにしている。預かり保育時間では異年齢交流を図ることができるよう活動を工夫している。3園合同行事を計画することで姉妹園の子どもとも交流を通して人と関わる力が育つように配慮している。
6		子どもがさまざまな文化を受けいれる配慮や環境、交流を整備している。	A	全学年において週1回外国人英語教師による時間を取り入れている。また、英語のカリキュラムを編成し、年間を通して計画的に保育の実践に努めている。

7	教職員同士の協力・連携	指導上配慮を必要とする幼児の自立の遅れについて A、全教職員で十分に話し合い、共通理解の上で対応する。	A	自立に困難が見られる子どもは、学年やクラス毎の見解にとどまらず、臨床心理士や堺市教育委員会からの巡回指導を受け専門的な見解を得ることで、より正しく子ども理解ができるように努めている。 専門的な意見を考慮し、園全体が共通理解の上で、適切な支援に心がけている。 大阪府や堺市が開催する研修会に積極的に参加し、障がいについての理解を深めている。 日々の保育の終わりに終礼をもち、子どもの姿や問題点を話し合う機会を大切にしている。
8	研修、研究会への参加	幼児期の発達発育を促す運動遊びやその指導法を研究している。	B	体づくりについては、乾布摩擦、マラソン、登山、水遊びなど年間計画によりすすめている。縄跳び運動などを年間通じて行い、体力づくりに取り組んでいる。運動は、一年を通して計画的に指導をしている。職員は研修会には、積極的に参加している。
9	健康、安全衛生への配慮	健康面 食物のアレルギーなどの問題について取り組んでいる。	A	食物アレルギーについては、管理栄養士が個々の子どもの実態に応じて対応している。担任だけの判断ではなく担当者を中心に園長・保護者・関係者の意見を聞いて適切な判断に努めている。
10	健康、安全衛生への配慮	体調が悪そうな時は静かに休ませる、検温するなど適切な処置を行い状況によっては、家庭へ連絡している。	A	感染症の予防対策のひとつとして、手洗いうがいの励行、洗った後の消毒液の使用、マスク着用を努めている。給食の際には、4人がけテーブルのためパーティションを設置し、静かに喫食するよう子どもたちに伝えている。 体調の変化 怪我などは担任一人で判断するのではなく、担当者や園長の指導のうえに対処している。特に体温が37.5度を超える場合や腹痛、下痢、嘔吐症状の場合は家庭に連絡し、保護者に迎えをお願いしている。
11	健康、安全衛生への配慮	トイレの清掃や使い方について発達段階に配慮し正しい使い方を具体的に伝える。	B	トイレの衛生 清掃は日々のチェックを怠らないようにし、清掃業者へ委託し、清掃・美化に徹底している。 スリッパの並べ方、排便・排尿の指導、トイレトペーパーの使い方など、年齢に応じた指導を徹底している。
12	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）対応手順につ		遊具の安全点検を実施し必要に応じて補修をし、園内においては毎月1日を安全点検の日として、整理や不具合な個所を確認したり等適切な対応に努めている。

		いて全職員が共通理解を持てるように取り組んでいる。	A	園の防災計画に基づいて、地震、火災を想定した避難訓練を行っている。また、不審者侵入を想定しての危機管理マニュアルを作成し、警察官来園の上で不審者侵入時の対応訓練を実施した。 感染症が広まるような可能性がある場合は、直ちに保護者にメール配信や文書で伝え、園内における怪我や嘔吐などは、本園のマニュアルに従って対処している。
13	情報の発信と受信	子どもの様子は、おたより帳や電話を活用して伝えあっている。	A	日々の子どもの様子は、おたより帳や電話で伝え、場合によって保護者と直接話すようにしている。園のスクールバスの運行状況は、アプリ画面で確認でき、また園とバスは無線で連絡できている。園行事の天候による変更はメールやブログ等で伝えている。
14		保護者を対象とするアンケートを実施し保護者のニーズを踏まえた園経営に生かすように努めている。	A	行事ごとにアンケートを行い、結果のまとめは保護者に報告して公開している。 保護者対象の行事については、今後も保護者の声を聞き入れ、改善できるように取り組み、園経営に活かすようにしている。 年2回個人懇談会を行い、保護者の考えを十分に聞き入れるようにした。保護者の積極的な参加は、常に活気のあるものとなった。
15	子育て支援事業と地域への開放と支援	支援事業の一環とし預かり保育、自由登園家族登園を実施している。地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	A	希望する子どもが登園し縦割り保育による自由登園を年間3回計画し異年齢交流も実施できた。 年間3回、希望する家族がそろって参加の家族登園を計画し楽しく親子で参加して頂くことができた。 預かり保育はコロナ感染対策の中、新2号認定家庭及び就労理由で預かり保育を必要とする家庭の園児を中心に実施し、多くの家庭が利用していた。また、代休日はもちろん、長期休業中は早朝、延長も含めて預かり保育を実施した。栄養士が手作りのおやつを提供し好評である。そのため、預かり保育利用園児数は年々増加状態である。また4年度の夏季休業中には希望者に給食を実施した。 未就園児親子登園は2歳児クラスだけでなく1歳児クラスも行い、また月1回の子育てさん集まれを実施することで地域の0歳児や1歳児、2歳児を持つ母子が参加できる機会を設けることができた。

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。
D	取り組みが不十分である。

【 評価の基準 】

今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み
1	カリキュラムの編成と充実	幼稚園教育要領改訂をふまえ、年間行事を視野に入れたカリキュラムの改正及び編成を工夫する。 保育の資質向上及び充実を図ろうとすると、どうしても行事が盛りだくさんになるために、運動会、作品展、音楽生活発表会などの取り組みには余裕をもった保育計画をたて、行事内容の充実を図る。
2	姉妹園との交流活動の充実	3園の主任会において積極的に意見交流を図ることで刺激し合い、それぞれの園の保育活動が充実し、質の高いものとなるようにする。
3	教職員の資質向上	今後も保育実践についての研修は、引き続き計画的に行う。保育者としてのあり方、人としての基本的なマナー等について研修する機会も大切に継続する。 園外の研修に積極的に参加し、教職員の資質向上に努める。堺市教育委員会の指導主事の指導を受けながら研究保育を積極的に実施し、幼少接続に繋がるよう公開保育を計画する。
4	家庭との連携の充実	アンケートや懇談会の実施により、保護者のニーズの把握に努める一方、園の考えを発信しながらより良い園を目指し更なる改善に努める。
5	地域との交流、幼少接続の充実	小学校との交流活動を積極的に行い、スムーズな幼少接続となるようにしていきたい。令和5年度も近隣の小学校及び教員を招き日常の保育の様子を見ていただく機会を設定し、幼少接続を進めていきたい。また、地域のお祭りや子育て広場での保育

		活動にも積極的に参加し地域の中の幼稚園であるということの意識を高めたい。
6	異文化とかかわる機会の充実	英語専科の外国人教員との関わりを深め、子ども達に異文化と触れ合う機会を多くする。 絵本・紙芝居などを通して、異文化にふれる機会を計画的に設定し国際理解教育の基礎を育成する。

学校関係者の評価

幼稚園教育要領での第 1 章に「教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り組もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共により良い教育環境を創造するように務めるものとする。」と示されています。遊びや生活の中で様々な環境と出会い、物と人と繰り返し関りながら、集中持続し取り組むことです。

公開保育においても 3 歳から 5 歳児の子ども達の経験・発達段階に即して、幼児期の終わりまでに育て欲しい姿や自立心、協調性、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり、数量や図形・文字への関心、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現など、いずれの保育にもこれらの姿が表れていたと思います。

保育者は絶えず、子どもが今何に興味を持っているのか、子どもの今の姿を捉えながら題材と生活を繋げ、その狙いを達成するためには発達に応じた材料・用具の提供、環境との新鮮な出会いの工夫、思考力を高める時間や場の工夫、一人ひとりの表現・思いを受け止め共感する言葉がけや援助等に苦慮することを求められています。これからも幼児との信頼関係を益々築いて楽しい保育になるよう願っています。

元 大阪信愛女学院短期大学子ども教育学科客員教授
舟井 賀世子

教育相談を申し込まれた保護者との面談のため、また、運動会や入園式卒園式などの行事の折に鳳幼稚園へ足を運んでいたが、令和 2 年度から 4 年度まで新型コロナウィルス感染拡大の中、ほとんど訪問することができず残念であった。

しかし、令和 3 年度の ECEQ 公開保育に引き続き 4 年度も公開保育をするということで案内いただき全職員が保育活動を公開するという取り組みに参加することを楽しみにしていたが、時節柄オンラインでの参加となった。堺市教育委員会より指導主事の方が 2 名、鳳小学校、鳳南小学校の各校長も参加し、公開保育後の協議会においても本時の保育に関する指導助言を聞くことができたと言報告を受けている。

全教職員が教育内容・教育計画を共通理解のもとに、自分自身の強みと課題を把握する中、公開保育に向けて保育内容の精選、取り組みを進めてきたとの報告も受け、開園 10 年目の鳳幼稚園として着実に保育実践に取り組んでいると感じている。

令和 5 年度も更なる園児の健やかな成長・発展および職員の資質向上に繋がるよう願っている。

元 堺市立福泉中央小学校 校長 角 谷 芳 子

鳳幼稚園学校関係者評価委員(2023年度)

角 谷 芳 子

元 堺市立幼稚園長、福泉中央小学校 校長

保護者対象の鳳幼稚園子育て相談会を担当して
いただいている。

舟井 賀世子

元大阪信愛学院短期大学 客員教授
大阪幼児造形教育研究会会長
全大阪幼少年美術振興会特任理事

本園の造形・絵画指導について職員への
指導を担当していただいている。